



2018年（平成30年） 12月3日 月曜日

日刊 産業新聞



たたらサミットパンフレット

2010年12月3日～6日『第8回たたらサミットin姫路』が姫路科学館で開催されました。内容は『たたら競演会』『シンポジウム』『たたら研修会』『史跡見学会』。その初日、科学館の前庭で



■74 (最終回)

「楽しかったコラムニスト」

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと交換しています。



たたらの様子

言葉をはじめて聞き、仕事で取材にはきたが、何のことが判らずに記事を書くのに困っていた記者達には私を取り囲みました。矢継ぎ早の質問に、とりあえず、たたら製鉄は6世紀頃に我が国へ伝わって来たと言われる製鉄法で、砂鉄を原料に粘土で作った炉に木炭で加熱、還元して鉄を作る方法です。炉づくり・火入れ・（砂鉄投入・木炭投入）を昼夜分かたず3・4日繰り返す過酷な作業、今回は小さな炉で早朝から炉作りをし、午前10時頃に火入れ、午後3時終了予定。と大まかな説明をしました。砂鉄はどこで採取



私も砂鉄を投入したよ

筆者から
ごあいさつ
毎月第一月曜日、1200字のコラムは私にとって非常に有意義な体験でした。この12月号が最終回です。読者の皆様、日刊産業新聞の担当の方々、6年余り74回のコラム、本当にお世話になりました。

たたら製鉄は、朝早くから堺工科高校チーム、三木高田チーム、京都大学たたら同好会など6基、それぞれ自分流の炉を組み始めていました。姫路ケーブルレヴィ『ウイック』の、以前から顔見知りの、カメラマンが撮影準備をしていました。その彼に、新聞記者が雑誌記者が数名が声をかけていました。「たたら製鉄とは何のことでですか？」忙しくしていた、彼は私のほうを向いて「あそこにいる衣川さんに聞け！」私に目配せをして「よろしく頼む」と言っています。

のふしぎ博物館「何でも書いて頂いて結構です、ということでお引き受けしました。09年、社内開設した『鉄のふしぎ博物館』の由来と目的から書きはじめ、磁石の話・ステンレス鋼の話・隕石と隕鉄・寛永通寶・『デ・レ・メタリカ』・くさりの話など書いてきました。2014年に大鋸（オガ）の事を書いた時『その大鋸を作った天彦さんは現在大阪で鉄鋼材料を扱う商社として残っている』と教えて頂きました。また、東郷ハガネの記事では『あの看板が今も大阪・門真市に残っている』ことを教えて頂き東京にある『カワイスチール』を訪ねさせて頂きました。



集合写真（撮影：衣川良介）